

思いやりのパスから生まれる 誰もが笑顔になれる場所



走らないサッカーで
人をつなぎ健康の輪を広げる

山田 武司 さん



左上・下:多世代が楽しく体を動かす教室
右上:WS安曇野マスコットキャラクター「つなマルくん」

「勝ち負けを決めない」という特別ルールがあります。勝負になると、気持ちが熱くなつて頑張りすぎてしまうもの。教室では、相手がボールを受け取りやすいように心を込めたパスをするなど、思いやりあるプレーが目立ちます。

「このサッカーなら私にもできる」。ウォーキングサッカーを体験した皆さんから、こんな声をよくいただきます。WS安曇野を立ち上げて3年半。小さい子どもから80代のおじいちゃんまで、幅広い世代が笑いながら体を動かす姿を見ると、少しずつ自分の思いが形になっていると感じます。

走らない・接触しない・ボールを強く蹴らないなどのルールがあるウォーキングサッカー。加えてWS安曇野には「勝ち負けを決めない」という特別ルールがあります。勝負になると、気持ちが熱くなつて頑張りすぎてしまうもの。教室では、相手がボールを受け取りやすいように心を込めたパスをするなど、思いやりあるプレーが目立ちます。

こうした雰囲気大切にしているのは、勝ち負けを追求していた私の学生時代が関係しています。当時は勝つことにこだわるあまり、サッカーが楽しい時期もありました。楽しさを思い出したのは、社会人になってフットサルクラブを結成した時のこと。全員が楽しめる環境を作ろうと、メンバーで話し合いながら初心者でも取り組みやすい練習メニューを考えてチームを作り上げました。仲間の笑顔を見て、込み上げたうれしさは今でも鮮明に覚えています。このフットサルクラブを通じて幅広い世代が楽しめるウォーキングサッカーに出会った時、より多くの人と笑顔分かち合いたいと思ったことが、現在につながっています。

勝ち負けよりも大切なもの

試合でも勝敗は決めます、誰かが得点するたびコートにいる全員で喜びながらハイタッチ。この特別ルールのおかげで、相手を気遣う気持ちが自然に生まれ、体も気持ちも安全でやさしい時間が流れます。レクリエーションを交えながら、2時間の教室が終わる頃には、大人は5000〜7000歩、子どもは9000歩以上歩いていることもあります。



1984年生まれ。学生時代はサッカー、社会人になるとフットサルに熱中する。2023年に「WS安曇野」を立ち上げ、ウォーキングサッカーの魅力を伝えている。好きなサッカー選手は三浦知良。



WS安曇野HP▶

MEMO
WS(ウォーキングサッカー)安曇野ウォーキングサッカーを通じて、心と体を元気にする市民活動団体。毎月3〜4回教室を開催している。マスコットキャラクターは、人のつながりや、健康がずっと続くように願いが込められた「つなマルくん」。

誰もが楽しみながら無理なく体を動かせる場所を目指し、少しずつ活動の幅を広げているWS安曇野。これからますます多くの人を笑顔にできるように活動を続けていきます。

4 本の楽器が奏でる音色に 心踊る

8月2日 サクソフォンカルテットコンサート



東京藝術大学出身者と同大学大学院生のカルテットによるコンサートが豊科公民館ホールで開かれました。訪れた約150人の観客は、4本のサクソフォンが織りなす豊かで優雅なハーモニーに酔いしれました。当日は、映画やドラマで使われた曲をはじめ、本格的なクラシックなど全9曲を演奏。アンコールでルパン三世のテーマ'80が披露されると会場全体がジャズの空気に包まれ、盛り上がりを見せていました。

重野みどりさん(62・穂高)は「グレン・ミラーのメドレーが特に素敵だった。もともとサクソフォンの音色が好きなので踊りたいほど」と感想を話しました。

新 たな食材を安曇野で チョウおいしい！

7月16日 安曇野産チョウザメ(身)の料理講習会

安曇野産のチョウザメを使った調理法を学ぶ講習会(市商工会観光特産飲食部会主催)が堀金公民館で開かれました。講習会はキャビアに目がいきがちなチョウザメの身に注目した安曇野調理師会代表の板花芳博さんが、市内で養殖に取り組む藤屋わさび農園の望月啓市さんの協力を得て実現。当日は、同会がチョウザメの身を使ったマリネや燻製など8品の調理を実演しながら、参加者に下処理の仕方などを紹介していました。

市内でビストロを営む三森雄太さん(40)は「清らかでやさしい味がしておいしい。自分ならどんな風に調理しようか次々とイメージが湧いてきた」と新たな食材に期待を寄せていました。



あ づみ野ばやしに合わせて 踊りの熱気

7月25日 第47回あづみ野祭り



あづみ野祭りが豊科駅周辺の国道147号線を主会場に開かれました。当日は、参加した区や企業など36連、約2300人が「あづみ野ばやし」に合わせて隊列を組んで元気に踊りを披露。沿道からも手拍子や声援が飛び交い、会場は熱気とともににぎわいを見せていました。

また、本年は9年ぶりに踊りのコンテストが行われ新田踊り連と安曇野市消防団があづみ野ばやし踊り賞を受賞しました。初めて家族で訪れた阿波加沙織さん(42・豊科)は「会場はすごい熱気。小学生の子どもがいるので、来年は家族で連に参加して踊りたい」と話していました。

